

第10章 人材育成と組織・法制度整備の推進

10.1 人材育成計画

本項では、「4.5.1 人材育成開発」で述べた基本戦略に関する計画を述べる。

10.1.1 観光業人材規模の拡大

「3.5.1 (1) 将来の人材需要」で述べたとおり、青海省においては 2010 年までに新たに 20,000 人の観光人材が必要になると考えられる。観光人材育成規模拡大の手段として以下を提案する。

- 既存教育機関の定員拡大
- 短期研修の実施

2010 年までは、急激な観光業の拡大に伴い、教育機関の容量拡大、及び短期研修による人材規模の拡大を重視する。2010 年以降は、短期研修数を減らして教育機関中心の育成とする。2010 年以降新しく育成した観光人材は、自然減の人材に置き換え、観光を学んだ人材の割合をセクターの中で増やしていく事とする。なお、青海省旅遊業発展と布局総体計画(2000)によると、青海省の平均的な部門間の人員変動率は 5%である。

(1) 育成機関ごとの定員拡大

前述のとおり、ポジション(現場担当者・監督者・責任者・経営者)毎の育成必要数はそれぞれ 16,000 人、3,500 人、400 人、100 人である。以下の条件においてポジション、及び教育機関ごとの新規育成数を表 10.1.1 にまとめる。

- 経営者の新規必要数(100 人)は教育機関での育成対象とせず、経営者、及び責任者ポジションで 1,000 人必要とする。また、このうち半分は内部からの昇進とし、育成必要数は 500 人とする³⁹。
- 人員の流動(退職者、転職者など)は考慮しない。
- 中専・高専高職・本科卒業者は、各人の能力等により、下表「教育・研修レベル」の(%)で表示される割合で各ポジションに分かれる。
- 短期研修終了者は現場担当者として就職する。

³⁹ 通常、経営者、及び多くの責任者は下のポジションから経験を積み、上のポジションに昇進するため。

表 10.1.1 ポジションによる人材育成数

ポジション	教育・研修レベル	新規育成数 (2010 まで)	育成数内訳
現場担当者	地方研修	16,000	2,000
	黄南州旅遊研修センター		1,200
	省旅遊教育研修センター		600
	西寧市観光サービスセンター		600
	西寧ホテル研修センター		3,000
	西寧ホテル国家職業技能検定所		1,100
	中専(約93%) 高専高職(25%)		6,800 700
現場監督者 (専門職含)	中専(約7%)	3,500	500
	高専高職(約71%)		2,000
	本科(約71%)		1,000
責任者・経営者	高専高職(約4%)	500	100
	本科(約29%)		400
合計		20,000	

上記の育成数内訳を機関ごとにまとめると、以下のとおりとなる。

表 10.1.2 機関ごとの人材育成数

種類		2004 - 2010 育成予定数(人)	拡大数(人)	育成数合計 (人)
教育機関	大学(本科)	1,100	300	1,400
	大学(専科) 高職	1,920	880	2,800
	職業学校(中専)	4,200	3,100	7,300
	教育機関計	7,220	4,280	11,500
研修機関	地方研修	未定	2,000	2,000
	黄南州観光研修センター	未定	1,200	1,200
	省旅遊教育研修センター ⁴⁰	未定	600	600
	西寧市観光サービスセンター	未定	600	600
	西寧ホテル研修センター	3,000	0	3,000
	西寧ホテル国家職業技能検定所	900	200	1,100
	研修機関計	3,900	4,600	8,500
合計		11,120	8,880	20,000

大学に比べ、職業学校と研修施設の拡大幅が大きい。これは、現場担当者に対する需要が大きいにも関わらず、それに対応すべき育成機関が特に少ないことを示す。また、高等教育修了者であっても、最初は現場担当者として就職する事も検討する。大卒者など、高い学歴を持つ者がフロントなどの現場業務を行う事に対し、人々の抵抗があるとの指摘が

⁴⁰ 同センターは観光ガイドに対する研修、及び資格認定が主な業務であるが、本計画では新規観光業従事者を対象とする研修を行う事とする。

あった。しかし、最初から責任者や経営者になるのではなく、現場経験を積むことで、将来的には現場を統率する責任者や経営者になれる事を学生や企業に理解させる必要がある。

本科・高職高専・中専の拡充方針は以下のとおりである。

本科・修士課程拡充方針

既に本科の人数はその期待されるポジションに比べて多く、卒業者の観光関連就職率が低い事（青海大学観光学部において約 60%）から、本科の人数拡大は最小限に抑える（2010年までに 320 人）。拡充方針は以下のとおりである。

- 青海民族学院において生態旅遊学科の設立を検討しているので、同科を定員拡大数に含める（年 50 人）。生態旅遊学科は、自然や文化などに焦点を当てた観光を学ぶ学科であり、後述するインタープリターの育成拠点として、また環境に配慮した観光開発計画能力を持った人材育成機関として大いに期待できる。
- 各大学の観光関連学科計 4 学科の定員を 5 - 10 名程度増やす。
- 日本語学科など、観光業に関連のある学科と観光学科間で単位交換制度（他学科生でも観光学科の単位が一部卒業単位に認められる）を導入することで、観光業界の学生を養成する。
- 将来の青海省観光業の高度化、また観光教育機関の研究者・教育者養成という視点から、修士課程の学生を 2010 年までに 20 人程度育成する。既に青海民族学院・青海師範大では修士の学生が在籍しており、青海大学も修士コースの設立を申請中である。なお、修士の育成人数は本科の育成数に含めるものとする。

高専高職拡充方針

高専高職（専科、高職）は、本科に比べて実践的なスキルを身に付けられるよう、カリキュラムが組まれている。よって、現場担当者から一部責任者に至るまで幅広い人材を育成する機関として、以下の方策により人数の拡充が望まれる（2010 年までに 940 人）。

- 大学専科において生態旅遊学科、及びホテル管理学科を 1 クラスずつ設立する。
- 西寧交通職業学校は、2006 年に新しい校舎を建設しており定員の拡大が可能であるため、ホテル管理学科を新設する。
- 通信教育・自習などによる単位授与制度を拡大する。

中専拡充方針

- 新世紀職業学校は既に定員の増加を計画しており、建物も新規建設中である。同学校において年 800 人規模の定員拡大を図り、中専人材育成の拠点とする。
- 西寧第一職業学校は、2006 年 1 月に専門学校と中学校が分かれ、専門学校の敷地内には校舎が余っている。そこに実習室を作る事で定員増加に対応する。なお、定員拡大時にはホテル管理学科を含めるものとする。
- 現在高職が中心である青海交通職業技術学校にて中専コースの開講を検討する。
- 夜間コースの開講を検討する。

(2) 観光需要が特に見込まれる地域での短期研修

現在、観光業の教育機関は全て西寧市内に位置し、2002年地点で観光業人材の95%が西寧周辺に集中している。2010年にかけて、海晏県、共和県といった観光開発が今後特に伸びると考えられる地域を中心に、各地域で観光人材の拡充を行い地元雇用を創出する。

具体的には、主にホテル従業員育成の為に短期研修（1ヵ月程度）を実施し、基本的な技術、ホスピタリティなどを一通り学ぶ。対象者は高校卒業程度とし、現場担当者を育成することとする。また、研修時には、労働局とも協業し、失業中の若者への研修受講を推進する。なお、青海省内の大学・職業学校の講師を派遣する。多くの講師は短期研修の実績があり、夏休みなどの長期休暇を利用し、省内各地で1ヵ月程度研修を実施する事は可能である。

また、環西寧圏の各地で各種研修センターが設立・計画されており、それらを最大限に活用することが望まれる。黄南州では特に観光業人材育成に力を入れており、第十一次五年計画では以下のような観光人材育成計画を明記している。

- 定期的な観光専門家との座談会
- 高レベルな観光人材の外部からの招聘
- 観光業研修センターの活用（宿泊施設も併設）
- 観光業界の需要や、観光業管理（星級評定、ガイド管理など）を人材育成に反映させる仕組みづくり

観光業研修センターは2006年に完成予定である。同センターを黄南州地区における観光人材育成拠点として活用し、ホテル業の短期育成を中心に2010年までに1,200人程度の人材育成を行うことを見込む。

また、西寧市は西寧市観光サービスセンターを2006年から建設予定である。同センターは、観光客へ観光情報提供や観光ガイドサービスを行うと共に、観光ガイドやホテル従業員に対して各種訓練を行うものであるが、新規観光人材の育成拠点としても活用する。西寧市観光サービスセンターの概要は以下のとおりである。

表 10.1.3 西寧市観光サービスセンター概要

名称	西寧市観光サービスセンター
場所	海湖橋以西
完成年度	2010年（一部2008年）
業務内容	観光情報の提供、ガイドサービス、救急サービス、観光業従事者への各種訓練（外国語（英・日・韓）含む）、観光開発計画策定コンサルティング、その他観光サービス（苦情受付、切符予約、観光コースの案内、ホテル、ツアーの紹介）
人材育成対象	ガイド、ホテル・レストラン従業員、観光ハイヤー・バス運転手

その他、循化サ族自治県にあるサラ族観光ガイドセンターなども活用対象とするが、人数が少ないため機関ごとの内訳は考慮しない。

スケジュール

2010年までの短期間の人材不足については、教育機関・研修機関の拡充、及び省内各地域での短期研修により、現場レベルの人材を中心に育成する。長期的には大学と職業学校を中心に育成を図る。

費用

教育機関の拡充に関する費用を運営費と施設建設費に分けて算出する。運営費は、現在各教育機関、及び研修時に係っている一人当たりの単価を元に算出し、施設建設費は、旅遊管理系学科とホテル管理系学科で設備が異なるため2通りの費用を適用する。表10.1.4は、費用算出に係る下記の仮定を元に教育機関拡充コストを試算したものである。

- 実習室は、職業学校で旅遊管理系とホテル管理系各1カ所、高専高職でホテル管理系1カ所が必要になる。大学(本科)は拡大数が少ないため、実習室の増築は行わない。
- 定員増加に係る校舍増築費は考慮しない⁴¹。

表 10.1.4 教育機関拡充コスト

1. 運営費

育成機関	単価(千元)	数(人)	合計(千元)
大学(本科)	16.0	300	4,800.0
高職高専	12.0	880	10,560.0
職業学校(中専)	6.0	4,200	25,200.0
研修機関	0.5	4,600	2,300.0
運営費計			42,860.0

2. 施設建設費

学科	設備内容	単価(千元)	数(箇所)	合計(千元)
旅遊管理系	模擬観光ガイド室	824.5	1	824.5
	視聴覚教室(40席)	725.0	1	725.0
	サービス訓練室	20.0	1	20.0
ホテル管理系	模擬フロント	1,123.5	2	2,247.0
	模擬ツインルーム	462.8	2	925.6
	模擬バー	290.0	2	580.0
	模擬レストラン(中華・西洋)	76.4	2	152.8
	模擬喫茶店	60.0	2	120.0
	模擬フィットネスクラブ	500.0	2	1,000.0
施設建設費計				6,594.9

3. 合計

49,454.9(千元)

⁴¹ ヒアリングによると、ほとんどの職業学校で既に増築が行われている。

10.1.2 観光業人材の高度化

観光業人材高度化の対象として、1) 教員の再教育、2) ホテル従業員の再訓練、3) 観光ガイドの教育、4) インタープリターの研修を優先的に検討する。理由は以下のとおりである。

- 教育機関の拡大においては、量だけでなく質も高める必要がある。そのため、教員の質を高める事は重要である。
- ホテル従業員は観光業人材の大半を占めていることから、ホテル従業員の高度化は観光業にとって特に重要である。従業員が高度な技能を身に付け、ホスピタリティあふれる対応で観光客を迎えることができれば、たとえホテル設備が不十分でも顧客満足を達成することができる。
- 青海省では中級以上のガイドは非常に少なく、既存ガイドの高度化が必要である。
- インタープリターは、対象公園の自然・文化を伝えると共に、観光客を啓発する役割も果たす。観光客の不認識が土地の環境破壊を引き起こす場合も多い。インタープリターは、観光客の観光地に対する意識を高め、観光客による観光地破壊の抑止力となりうる重要な役目を果たす。

教員（大学・職業学校）の再教育

教育機関（大学・職業学校）の専門教科教員を青海省内のホテルもしくは旅行会社へ1ヵ月派遣し、実務経験の機会を与える。業務内容は教員の専門に応じて決める。研修終了後、教員は実地体験に基づいて教科・訓練カリキュラムの見直しを行う。

また、可能であれば同じ教員を観光先進地域（西安・蘭州など）へ2週間程度、同様の実地見聞・体験の為に派遣する。ここでは、サービス水準を青海省内のホテルと比較することでより深い考察を得て、教科・訓練カリキュラムの見直しに役立てることを目的とする。

ホテル従業員の再訓練

青海省内の主要な星級ホテル訓練指導員を対象に、技能とホスピタリティについての再訓練を行う。この再訓練を通じて、青海省ホテルの訓練指導員がより高度な技能とホスピタリティについての心構えを得て、他の現場担当者へより効果的な指導を行う事を目的とする。

技能に関しては、フロント（フロント、ドアマン等）、客室（客室清掃、ベッドメイキング、ランドリー等）、レストラン（ウェイター、ウェイトレス、バー）、経理、保守管理の4部門に分け、観光先進地域のホテル（4星以上）へ2週間派遣し、技能を習得させる。

ホスピタリティとは訪れた人を優しく迎え入れてもてなすことであるが、技術と異なり、ベテランになるほどホスピタリティを失う場合もある。よって、この訓練を通じて、再度ホスピタリティについて考える機会を設ける。

また、観光先進地域のホテルに所属する訓練指導員を青海省へ招聘し、1ヵ月程度の訓練を行う。対象は青海省内の主要ホテル（3、4星クラス）の現場監督者を対象とし、部門（フロント・客室・経理・保守管理）毎に1週間ずつ訓練を行う。この場合青海省において実施する為、より多くの従業員を訓練する事ができる。

なお、訓練を通して高い技術とホスピタリティを身に付けた従業員に対しては、そのレベルに応じて昇給や昇進を行い、従業員が訓練に参加する動機付けを行う事も必要である。

観光ガイドの教育

省旅遊教育センターが実施主体となり、2 ヶ月に一度省内の初級ガイドを対象として講習会を実施する。講師は省内の模範ガイド（中級以上）とし、講習会は、講義だけでなく省内の観光地での実地研修、ロールプレイングを含む。実地研修においてはまず講習生（初級ガイド）数人がガイドを行い、その後、講師（模範ガイド）が講習生の案内で気づいた改善点を指摘する。ポイントは以下を含む。

- ガイドにおける欠落点
- 内容の誤り・不正確さ
- 内容のわかりやすさ
- 観光客に興味をもたせる話し方、空き時間を退屈させない技術
- バス乗降時の注意
- 施設内において観光客をまとめる技術、気配り

西寧市観光サービスセンターにおいて外国語（英・日・韓）の研修を実施予定であるが、その講師不足が問題として挙げられている。また、省旅遊教育センターも外国語ガイド養成を課題としている。よって、青海大学と青海民族学院に派遣中の青年海外協力隊員（日本語教師）が定期的に日本語指導を行うことを提案する⁴²。語学研修は、ホテル従業員と観光ガイドを対象とし、特に「観光のための日本語」の観点からロールプレイング等の実践的な語学教育を行うものとする。日本語研修の素案は以下のとおりである。青海省においては、中級レベルの日本語能力を持つ者が特に不足していることから、当初は日本語学習経験者を対象とし、中級レベルの日本語能力を身に付けることを目指す。

表 10.1.5 観光業者対象日本語研修素案

対象	初級日本語ガイド程度の日本語知識がある観光業従事者（観光ガイド、ホテル勤務者等）20 - 30 名程度
時期	閑散期（10 - 3 月）
場所	省旅遊教育センター、または西寧市観光サービスセンター
コース期間	週 1 回 × 3 時間（3 ヶ月を 1 タームとする）

インタープリターの研修

ネイチャー・インタープリターや自然公園ガイドは、自然保護区や歴史・文化区などにおける観光客の行動管理の役割も担うので、これらの人材は、地元固有の自然資源・生態系や歴史・文化・民族などについて深い知識が必要である。環西寧圏の自然公園におけるガイド育成状況は下表のとおりである。

⁴² 韓国国際協力団（KOICA）ボランティアは幼児教育専門のため含めない。

表 10.1.6 環西寧圏における自然公園ガイド育成状況

名称	ガイドの育成状況
カンブラ公園 (尖扎県)	県旅遊局職員(1人、有資格)
北山国家森林公園 (互助県)	公園運営会社の職員が配置されている(7人、うち有資格者4人)
孟達国家自然保護区 (循化サラ族自治県)	サラ族旅遊サービスセンターで専属ガイドを雇用(10人) ガイドに2ヵ月の研修を行い、木の種類など公園内の自然に関する研修を行う。
仙米国家森林公園 (門源県)	特になし

(2006年3月現在)

上記の自然公園ガイドをさらに高度化し、今後の新たな需要に応える為、インタープリター育成を行う。カンブラ公園など独自の民族文化・歴史を持つ公園では、自然の知識だけでなく、地元の文化を伝えることが重要である。この為、可能であれば地元民もインタープリターの対象として含める。地元民が中国語を話せない場合でも、通訳をつけることで地元文化の語り部となり、地元の人材の雇用創出効果も兼ねる。各公園での育成対象、観光客へ伝える内容、必要な知識・能力は下表のとおりである。

表 10.1.7 自然公園インタープリター概要

公園名	主な対象者	伝える内容	必要な知識/能力
カンブラ公園	<ul style="list-style-type: none"> 一般・専属観光ガイド 県旅遊局職員 水上スポーツ・レジャーインストラクター 地元住民 僧侶 	<ul style="list-style-type: none"> カンブラ公園の自然・地形 独自の文化(チベット仏教、地方文化) ごみ処理 防火 	<ul style="list-style-type: none"> 気候と天候状況 場所の状況、道の案内 奇岩、山の地質 植物と動物の知識 人々の生活、文化、チベット仏教 時間帯(朝・昼・晩) 季節による景観スポット 日光の当たり具合によって変わる写真スポット、技術 ごみ処理方法 ホスピタリティ
北山国家森林公園	<ul style="list-style-type: none"> 専属ガイド、旅行会社ガイド、一般公募ガイドなど 公園運営会社職員 	<ul style="list-style-type: none"> 北山国家森林公園の自然、生物 ごみ処理 防火 	<ul style="list-style-type: none"> 気候と天候状況 場所の状況、トレッキングルートのご案内 植物と動物の知識 写真スポット、技術 ごみ処理方法 ホスピタリティ
青海湖沙島地区	<ul style="list-style-type: none"> 金銀灘旅遊開発公司専任ガイド 砂スポーツ・レジャーインストラクター 白佛寺僧侶 	<ul style="list-style-type: none"> 沙島の自然、生物、楽しみ方 ごみ処理 砂漠化のシステムと歴史 青海湖の歴史、自然 	<ul style="list-style-type: none"> 自然、動物の知識 チベットレイヨウの知識 葦の知識 スポーツレジャーのインストラクション 車両運転能力 ごみ処理方法 ホスピタリティ

公園名	主な対象者	伝える内容	必要な知識/能力
孟達国家自然保護区	<ul style="list-style-type: none"> ・ サラ族旅遊センター所属観光ガイド ・ 公園スタッフ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然保護区の自然 ・ 公園の状況、天候 ・ ごみ処理 ・ 防火 ・ 安全 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植物（葉草・木など）の知識 ・ ラバの習性 ・ 野鳥の知識 ・ 公園にまつわる伝承 ・ ホスピタリティ
仙米国家森林公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林業局職員 ・ 一般観光ガイド 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仙米森林公園の自然 ・ ごみ処理 ・ 防火 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気候と天候状況 ・ 場所の状況、道の案内 ・ 渓谷、清流の写真スポット ・ 植物と動物の知識 ・ チベット文化、伝承、仏教 ・ ごみ処理方法 ・ ホスピタリティ

なお、同仁県ではレゴン文化に関する芸術学校（中専相当）を計画中であり、刺繍やタンカなどの指導と共にレゴン文化のガイド養成も検討している。同芸術学校はレゴン文化を伝承する上で重要であり、同地区の文化ガイド育成拠点とする。

研修カリキュラムの策定にあたっては、青海省旅遊局が中心となり、海外、または先進地域から専門家を招き検討する。その際、必要であれば地元住民も含め、独自の風習や歴史、宗教等に関し充分配慮することとする。研修内容例を下記する。

表 10.1.8 インタープリター研修例

項目	内容	実地研修
基礎科学	植物学、動物学、生態学、地質学	
環境マネジメント	エコツーリズム概論、自然公園マネジメント	
ガイド技術	自然ガイド・インタープリテーション概論、対象者理解	
地域	暮らしと文化、歴史、気象、宗教	
危機管理	危険な生物・植物、気象全般、自然関係法令	
一般管理	話し方、グループ管理、ホスピタリティ	

：実地研修を含めた方が望ましい項目

コスト

上記の各施策に必要な費用は以下のとおりである。

表 10.1.9 観光業人材の高度化に係るコスト

項目	単位当り費用(元)	数	合計(千元)
教員の再教育			190
ホテルへの派遣(1ヵ月)	2,800/人	30人	84
旅行会社への派遣(1ヵ月)	2,800/人	20人	56
先進地域での研修(2週間)	5,000/人	10人	50
ホテル従業員の再訓練			98
先進省への派遣(2週間)	2,200/人	20人	44
訓練指導員の派遣(1ヵ月)	18,000/指導員	3人	54

法体系整備

省旅遊局政策法規部が中心となり、青海省観光業に係る法体系の整備を行う。特に、前項で指摘の通り観光業における消費者保護の法律はまだ青海省では作成されておらず、消費者保護体制は未発達と言える。したがって、消費者保護制度を整え、旅行者が安心して旅行できる体制を整える必要がある。制定が望まれる消費者保護関連法規は以下のとおりである。

- 「旅行社責任保険参加規定」、「旅遊投訴暫定規定」、「旅遊安全管理暫定方法」、「旅遊安全管理暫定方法実施細則」を青海省に適用した法規を制定する。
- 「消費者契約条例」の制定を検討する。これは、事業者との契約における消費者保護条例であり、例えば、旅行会社との契約時に事業者から異なる情報を得た場合、契約の取り消しができる。

上記の法規を整えた後、青海旅遊品質監督管理所が中心となり、観光客が安心して旅行できる体制を整備する。具体案は以下のとおりである。

- 省人事教育部と協力し、消費者保護関連条例・細則を関係者が確実に施行できるようにする為の研修を実施する。受講者は省・自治州・県旅遊局職員、旅行会社職員などとする。
- 消費者保護に関するガイドラインを旅行会社向けに作成する。
- 投訴制度を改善し、旅行者がより安心して利用できる制度づくりを目指す。例えば、投訴事例と適切な賠償金額をウェブサイトに掲げ、利用者が適用事例を把握できるようにする。
- 省内の一部ホテルなどに意見箱を設け、顧客が意見を述べられるようにする。この意見を青海旅遊品質監督管理所が把握し、適宜指導を行う。また、必要に応じて政策法規部とも協力して条例や標準、ガイドラインなどに反映させる。

10.2.2 青海省旅遊局組織の強化

省旅遊局の組織強化策として、まず各職員に対する研修について述べる。次に、青海省観光業の発展に特に重要な計画建設部、青海省旅遊品質監督管理所、及び市場宣伝部の強化案を述べる。

職員研修制度の強化

今後、省旅遊局人事教育部が中心となり、旅遊局職員の研修機会を増やす。まず、同部が職員から聞き取りを行って研修需要を把握し、旅遊局全体の人材育成計画、予算を考慮し研修計画を立てる。省内の他庁・局に定期的にヒアリングを行い、研修計画に合致する研修を他局が実施する場合は参加するが、旅遊局の研修主催も積極的に検討する。

また、国家旅遊局・先進省市自治区での研修受講者や交流事業終了者が、身につけた能力・技術を他職員に伝える仕組みを作る。人事教育部が中心となり、研修受講者を講師として旅遊局内で1回2時間、数回にわたる講座を開き、研修内容を旅遊局内で共有する。

環境保全に配慮した計画管理能力の向上（計画建設部）

青海省旅遊局計画建設部は、観光開発計画の策定、F/S、事業管理を担当している。開発計画は環境保全計画・対策を盛り込んだものでなければならないが、経験・認識不足により、具体性、実現性に欠ける内容しか記載されていない事が多い。保全対策が徹底されていない計画は、不適切な施設整備や過度な開発につながる。

したがって、計画建設部内に環境保全対策の重要性を認識し、計画・設計時に環境保全に配慮できる担当者の育成を図る。具体的には、東部地域との人材交流事業を利用して、担当者を派遣する。また、林業局、自然保護局など環境保護を担当している部署との連携を強め、実行力のある計画策定を行う。

観光業務の規制の枠組み向上（青海省旅遊品質監督管理所）

青海省旅遊品質監督管理所の職員は現在 4 人と少数であるが、今後の宿泊施設を含む観光業者の増加に伴い、同所の業務量と重要性はますます拡大すると考えられ、同所を特に強化する必要がある。また、他機関やマスメディアとの協力体制をより強化し、できるだけ効果的に管理・監督業務が行えるようにする。必要に応じて、省旅遊協会への一部業務の委託、他部署からの人材異動も検討する。

観光需要を的確に捕らえたマーケティング能力向上（市場宣伝部）

現在、市場宣伝部は記者を含み 6 人で運営されている。職員は宣伝業務に追われ、市場調査に十分時間を割くことができていない。今後の青海省の観光振興において、市場調査・宣伝業務はますます重要となるため、その役割の強化が求められる。その方策を以下に提案する。

● 市場宣伝部の人員を増やし、市場調査課と宣伝課に分割

市場宣伝部の人員を増やし、かつ市場調査課と宣伝課に分割することで部の規模を拡大し、市場調査業務を強化する。しかしながら、部署を分割した場合、市場調査と宣伝の協力体制がうまくいかず、市場調査に基づいた宣伝業務が行われない恐れもある。

● 外部リソースの活用

市場調査会社や広告代理店といった民間会社を活用し、業務内容の充実を図る。外部のノウハウを取り入れることで、職員の能力向上にもつながる。留意点としては、資金の確保や適切な民間会社の選定が挙げられる。

10.2.3 省旅遊協会の組織強化

官民一体となった観光開発に向けて、省旅遊協会の重要性は今後ますます高まると考えられるが、同協会の活動は視察や雑誌の発行などが中心である。省旅遊協会の組織強化を図り、観光業者の経営に直接役に立つ情報と経営手法の伝達などを活発に行うことが重要である。なお、日本の多くの旅行会社が所属する社団法人日本旅行業協会（JATA）は、次のとおり比較的多岐にわたる業務を担当している。

- 1) 旅行者、及び旅行に関するサービスを提供する者からの旅行業者等の取り扱った旅行業務に対する苦情の解決
- 2) 旅行業務の取扱いに従事する者に対する研修
- 3) 旅行業務に関し正会員、または正会員を所属旅行業者とする旅行業者代理業者と取引をした者に対する弁済業務
- 4) 旅行業務の適切な運営を確保するための旅行業者等に対する指導
- 5) 旅行業務に関する取引の公正の確保、または旅行業の健全な発達を図るための調査、研究、及び広報
- 6) 関係官公署、関係機関等に対する意見の具申

出所 JATAウェブサイト：<http://www.jata-net.or.jp/> より抜粋（2005/12/5）

省旅遊協会の強化には、以下の施策が考えられる。

- より多くの関係者の参加を促し、各分会の活動を活発化する。
- 分会同士の交流を増やして業界内の協力強化を図る。例えば、日本では、産学連携の一環として、民間企業が大学に「観光学」の寄付講座を開設した。
- 先進省市自治区への視察成果など、会員内の情報共有をより確実にする。例えば、発行している雑誌への視察報告の掲載や会合での発表が検討できる。
- 会費の徴収を確実にを行う。

現在、星級ホテルの評定業務が省旅遊局から省旅遊協会へ移管されることが予定されている。これは、以下のような利点がある。

- 人材不足の省旅遊局の負担を減らし、省旅遊局が様々な政策を実施する能力を拡大する事ができる。
- 観光業務の専門家集団である省旅遊協会が評定業務を行うことで、より専門性の高い効率的な評定ができる。
- 評定業務費用を徴収することで、省旅遊協会の財政基盤確立に貢献する。

しかしながら、当事者による評定のため、チェック機能が十分に働かない可能性がある（これは手続きを透明にすることである程度緩和できる）ことに留意する必要がある。チェック機能が働かなければ問題のある業者が放置され、青海省全体の評価を市場で落とし、ひいては省観光業の発展を阻害することになる。

また、青海省における星級ホテルの判定基準は多省市自治区に比べて低いという指摘もある。評定者は多省市自治区の事例研究を十分に行い、できるだけ全国的な水準を検討する事が必要である。

第11章 資金調達方法の拡大

11.1 現在の資金調達方法

青海省観光セクターへの過去5年間の投資の資金源を見ると、次の3つに大別できる。

- 中央政府
- 地方政府
- 民間資本と外国資本

(1) 中央政府

1998年のアジア金融危機以降、中国政府は内需拡大を図るために積極的な財政政策を実施し、国債発行によるインフラ整備を進めた。国債プロジェクトには観光インフラも含まれている。

青海省では、観光道路や観光地の電力供給施設、ゴミ処理施設、上下水道などの観光

関連インフラのプロジェクトに対して国債が配分され、2000年から2004年の5年間で合計2億4千萬元余りが投入された。

しかし、2005年の中央政府の財政政策が「積極的」から「中立的」にシフトされ、国債発行が大幅に削減された。2006年以降も国債発行規模は縮小され、国債プロジェクトも大幅に減少する見通しである。

(2) 地方政府

青海省人民政府は、観光産業を有望産業として育成していく方針を固め、2000年から旅遊発展基金という名目で省人民政府の予算から積極的に財政投入している。旅遊発展基金は2000年の600萬元から2004年の1,000萬元に増額されているが、金額自体はまだ少なく、旅遊発展基金のほとんどは県レベルの小規模観光開発プロジェクトの助成に投入されている。

(3) 民間資本と外国資本

青海省観光セクターへの民間投資は、総じて次の2つの特徴を持つ。

- 投資対象がホテルに集中している。2005年末時点で建設中のホテルは表11.1.2のとおりであり、投資額は4億元余りに達する。

表 11.1.1 プロジェクトと投入された国債金額

年	プロジェクト	国債金額
2000	• 観光道路：3件	4,360 万元
2001	• 観光道路6件 • 上水道など：2件	6,906 万元
2002	• 観光道路：2件 • ゴミ処理施設、上水道、電力供給施設など：3件	4,710 万元
2003	• 上下水道、ゴミ処理施設など：6件	6,914 万元
2004	• 総合整備	1,200 万元

表 11.1.2 建設中のホテル（2005年末時点）

グレード	部屋数	投資額	投資者
5星	300	20,000 万元	民間企業
4星（2件）	520	16,000 万元	民間企業
3星（2件）	320	5,500 万元	民間企業

- 一部の中規模観光施設（スキー場や民族村）を除き、民間資本による観光地・観光施設への投資はほとんどない。また、台湾からの資本による青海湖畔の施設整備などを除き、青海省観光セクターへの外国資本による投資もほとんど見られない。

（４）課題

青海省観光セクターにおける資金調達方法には次の３つの課題を挙げる事ができる。

• 草創段階にある資金調達方法

一般に資金調達方法には「内部留保」と「外部融資」があるが、青海省の観光産業自体が草創期にあり、内部留保がほとんど見られない。公的（中央政府、地方政府）資金投入も 2000 年から開始されたに過ぎず、集積が少ない。

• 観光セクターへの小さい投入金額

民間資本によるホテル整備を除き、青海省観光セクターへの投入資金は 5 年間（2000 - 2004）でわずか 3 億元弱である。

• 民間投資・外国資本投資にとっての青海省観光の低い魅力

民間投資と外国資本投資は西寧市内のホテル建設に集中しており、他観光施設への投資はほとんどない。市場が小さいことによる低い収益性（投資リターン）の他、法律、制度、人材など各面において多くの課題があり、青海省観光セクターへの民間投資と外国資本投資が阻まれている。

今後、青海省観光産業の振興を図って観光プロジェクトを実施していくためには、長期的、かつ大きな投資の確保が不可欠であり、多様で有効な資金調達方法を検討しなければならない。

11.2 資金調達方法の拡大

（１）概論

大規模な観光産業は労働集約型と資本集約型の両方の特徴を持ち、いわゆる大量投入・大量産出的产业である。

観光開発には観光産業の発展段階（図 11.2.1）に応じた様々な資金調達方法が考えられる。観光産業の発展段階と段階別の資金調達方法を表 11.2.1 に示す。

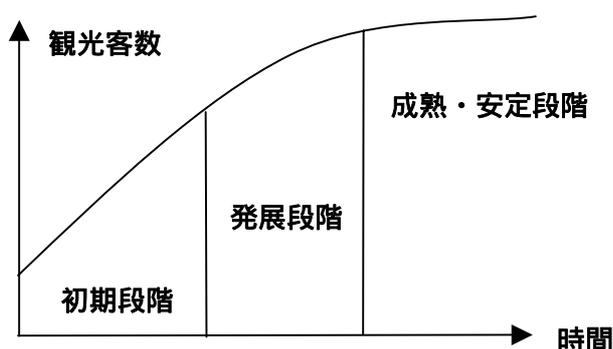


図 11.2.1 観光産業の発展段階

表 11.2.1 観光産業の発展段階と資金調達方法

段階	主な内容・特徴	資金調達方法
開発前段階	計画立案・策定 実現可能性調査 (F/S)	ほとんど政府資金
初期段階	1. インフラ整備、観光施設整備 2. 限定的な観光客受け入れ	長期資金 1. 政府資金 2. 国際金融機関からの借り入れ 3. 政府担保による商業銀行からの借り入れ 4. 一部民間資本の導入
発展段階	1. 観光施設の建設と拡充 2. 知名度・イメージ向上などマーケティング活動の展開 3. 観光客数の増加	1. 産業基金による資金調達 2. プロジェクトファイナンス 3. 民営化による資金調達 4. 債権発行 5. 商業銀行からの借り入れ 6. 株式市場への上場
成熟・安定段階	1. 観光施設の維持監理と拡充 2. 知名度とイメージの維持 3. 観光客数の安定	1. 商業銀行からの借り入れ 2. 株式市場への上場

(2) 政府資金

青海省における観光開発の発展段階や投資環境から、今後長期間にわたり政府資金の投入が重要かつ不可欠であると考えられる。ただし、今まで観光開発を支えてきた国債プロジェクトが 2006 年から大幅に縮小する見込みであり、中央政府に新たなスキームを働きかける必要がある。

中国では、中央政府機関や東部沿海地域が西部地域の未発達省市自治区を支援する「対口支援（パートナーシップ）」がある。青海省のパートナーは遼寧省と上海市浦東新区であり、これまでインフラ整備、工業や教育などの分野で多くのプロジェクトが実施されてきた。今後、青海省は意識的に観光開発プロジェクトをパートナー省・市に要請すべきである。対口支援制度の活用により、開発資金調達の他、東部沿海先進省・市（とりわけ上海市浦東新区）の観光開発ノウハウの習得も期待できる。

(3) 銀行融資

観光開発資金の確保には、政府投資の他に銀行融資を積極的に利用すべきである。

- 国家開発銀行：中国唯一の政策銀行で、積極的に西部大開発政策を支援している。国家開発銀行の支援を得るには、地元政府、及び国家西部開発弁公室において立案し、その支持を得る必要がある。
- 商業銀行：大株主か地方政府による担保の提供が必要である。現在の金融環境では、商業銀行からの大規模資金調達は比較的難しい。
- 国際政策金融機関

1980年代から多くの国際金融機関が中国のインフラ整備、環境、社会開発などの分野を中心に投融資を実施してきた。これらの投融資は、長い返済期間と低い利率などのメリットを持っている。一般的に、国際金融機関は中国の政府機関（国家発展改革委員会、財政部）と密接に連携し、常に中国のマクロ経済政策を支援している。

また、中国政府は西部大開発政策を推進しており、西部大開発の重点地域である青海省にとって、これらの国際金融機関に積極的にアプローチすべきである。表 11.2.2 に主な国際金融機関の概要を整理する。

表 11.2.2 主な国際金融機関

国際金融機関	内容・特徴
1 世界銀行 (WB)	<ul style="list-style-type: none"> 1981年から対中国融資を開始。これまで263プロジェクトを実施し、融資額は391億ドル(約3,154億元) これまで青海省が獲得した融資は全体のわずか0.4% 2003年から2005年で24プロジェクトを実施(融資額は34億ドル(約274億元))。西部開発や都市化などの分野に集中
2 アジア開発銀行 (ADB)	<ul style="list-style-type: none"> 1986年から対中融資を開始し、これまでの融資額は149億ドル(約1,202億元) 2004年、7プロジェクト、13億ドル(105億元)を実施 融資の重点分野は交通、エネルギー、環境に集中 主に中央アジア諸国を対象に「シルクロード再振興」プロジェクトを実施 2005-2007年計画では西部開発への支援、貧困対策などが重点
3 国際協力銀行 (JIBC)	<ul style="list-style-type: none"> 日本政府による円借款の実施機関 1980年から対中国円借款を開始し、これまで3兆円(約2,073億元)を越す円借款を実施 2008年以降は停止される予定

(4) 観光産業基金

融資と投資を組み合わせた資金調達手法として、産業基金(Industrial Fund)の試みを検討する価値がある。産業基金は、特定した成長性のある産業を対象とするもので、長期的な利益を追求するものである。

中国政府は、現在「産業基金」の設立を徐々に拡大させている。青海省の観光産業にとって、新たな融資の手段として試みるべきである。

(5) プロジェクトファイナンス

プロジェクトファイナンスは、プロジェクトの発起人の担保に頼らない融資であり、融資側の収益はプロジェクトから生まれる利益を得ることによって確保される資金調達手法である。インフラ整備などには向かないが、特定の観光施設建設に対して十分に適用可能である。さらに、プロジェクトファイナンス方式を発展させ、BOT方式(民間が建設運営し、一定の期間運営管理した後に政府に所有権を移転する方式)も検討する価値がある。

(6) 信託融資

観光施設、あるいは収益権（例えば入場料収入）を担保に融資を受ける方法である。比較的融資コストが高い（9 - 12%）。

11.3 重点観光プロジェクト開発の資金需要と開発体制

11.3.1 資金需要

本調査の3つの優先プロジェクト（カンブラ公園・李家峡地区観光開発、青海湖151基地観光開発、青海湖沙島地区観光開発）だけで、開発に必要となる建設資金を約39億元と見積もっている。この金額は、第十次五ヵ年計画期間中の青海省観光産業投資額の4倍近い。今後観光開発事業を実施していくためには多額の投資が必要であり、資金調達方法の多様化を図ることが急務である。

11.3.2 開発体制

前述のとおり、青海省の観光開発はまだ草創期にあり、観光関連インフラ整備などには長期的に大きな資金が必要と考える。この前提を踏まえ、今後数年間にわたる初期段階において、重点観光プロジェクト、とりわけ青海湖周辺の観光プロジェクト開発を実施するためには、財務基盤がしっかりし、また中心的な役割を果たせる組織が資金調達を行う必要がある。

観光インフラ整備は、公的な組織、及び国有企業が主導で実施されるのが望ましいが、観光施設や観光地の管理運営は可能な限り民間資本（国内、あるいは外国）に任せるべきである。

3つの優先プロジェクトに係る資金調達額や調達方法、開発体制については、第14章以降でそれぞれ詳細に述べる。

第12章 プロジェクト実施計画

12.1 段階的実施計画

2010年には985万人、2020年には1,202万人の内外からの観光客の誘致を目指す環西寧圏では、需要の質と量に見合った宿泊施設開発、及びそれらの観光施設開発を支えるための基盤施設整備事業を要する。環西寧圏の観光を特徴付けている自然資源や歴史的遺産などの観光資源の適切な保護・保全のための管理・監視体制づくり、また資源の保護・保全事業の適切な実施が必要で、観光市場の開発のためのマーケティング・プロモーション事業の継続的な展開が必要である。さらに、これらの開発や保全事業を実施するための人材の育成、事業の実施と観光管理体制の強化も必要である。しかし、これら全てをまとめて進めることは効率的ではなく、需要の伸張に合わせ段階的に進める事が望ましい。

(1) 観光施設・基盤開発

観光施設、及び基盤施設は、2004年の512万人の観光入込客に対して既存の施設開発・集積が遅れている。2010年までの観光需要に応えるための短期開発投資額が大きく、観光施設が約119億元、基盤施設は約36億元に達し、同期中の投資額の95%以上を占め、中長期を含む各々の開発投資額の60%前後を占めるなど、物的な開発投資が初期に集中する。

(2) 市場開発

マーケティング・プロモーション事業は、短期・中期・長期における継続的な展開が必要とされ、短期においては2.2億元(同期の1.4%)、中長期では4.4億元(3.9%)となる。

(3) 環境保全・歴史遺産保全

環西寧圏の主要な観光資源となっている自然環境資源・歴史文化遺産を持続的に活用するため、資源の保護・保全システムの整備と保全事業の実施が肝要とされる。短期における費用は約2.1億元(同期の1.3%)、中長期においては約1.7億元(1.5%)となる。

(4) 実施・管理体制の強化

適切な観光開発の誘致・管理・監督、これら投資を誘致・誘導するための基盤整備事業の実施、官民による市場開発の展開、資源の保護・保全等に要する体制の強化には、短期では0.14億元、中長期で0.29億元が必要である。

(5) 人材育成

観光産業関連の人材集積は、観光施設同様に観光入込客に現状に比べて育成体制の整備が遅れており、短期2010年までの人材開発に0.85億元とトップヘビーな投資が必要となる。

12.2 開発投資額とプロジェクトリスト

分野別開発投資額と開発プロジェクトリストをまとめる。

表 12.2.1 分野別開発投資額

分野	2006 - 2010		2011 - 2020		合計 (万元)	
	投資額	割合	投資額	割合	投資額	割合
観光拠点開発	426,190	26.6%	228,717	20.3%	654,907	24.0%
観光スポット開発	175,676	11.0%	235,088	20.9%	410,764	15.1%
宿泊施設整備	587,773	36.7%	352,518	31.3%	940,291	34.5%
観光施設投資合計	1,189,639	74.2%	816,323	72.5%	2,005,962	73.5%
基盤施設整備事業	360,548	22.5%	244,897	21.8%	605,445	22.2%
環境保全	14,441	0.9%	3,862	0.3%	18,303	0.7%
歴史遺産保全	6,532	0.4%	13,525	1.2%	20,057	0.7%
市場開発	22,116	1.4%	44,154	3.9%	66,270	2.4%
実施・管理体制強化	1,431	0.1%	2,861	0.3%	4,292	0.2%
人材育成	8,484	0.5%	68	0.0%	8,552	0.3%
総計	1,603,191	100.0%	1,125,690	100.0%	2,728,881	100.0%

出所 JICA 調査団

表 12.2.2 環西寧圏観光開発プロジェクトリスト

分野	コード	名称	プロジェクト 事業内容	事業費(万元)			関連組織		対象地		
				短期事業			中・長期事業	総事業費計		実施組織	管理組織
				民間(観光施設等)	公的(基盤等)	合計					
観光拠点	主西-1	西寧観光拠点都市開発・整備	大南山旅遊休暇区(観光施設、ゴルフ場、スキー場) 城南温泉休暇村(大型スキー場、温泉、絨毯センター) 中心市街地の観光施設再開発・改良事業(商店街、劇場再整備、物産、土産品センター、飲食娯楽センター、ファッションセンター、文化展示センター、民俗芸能センター) 基盤整備事業(域内道路整備、インフラ整備)	197,977	59,393	257,370	53,500	310,870	西寧市 (観光施設:民間) (基盤施設:公)	西寧市	西寧市
観光拠点	主西-2	互助民族旅遊区観光拠点開発	物産展示・販売館、シルクアート館、土族刺繍村、民族風情村大ステージ・芸能センター、白酒工場の展示・販売館、基盤整備事業(域内道路、インフラ整備)	5,669	1,701	7,370	715	8,085	互助県 (観光施設:民間) (基盤施設:公)	互助県	互助県・民族旅遊区
観光スポット	補西-3	西寧観光拠点都市の観光スポット整備事業	69 観光スポット整備事業(表 12.2.3 参照)	89,652	26,895	116,547	163,208	279,755	関係市・県 (観光施設:民間) (基盤施設:公)	関係市・県	湟中・湟源・大通・楽都・民和県内
観光拠点	主青-1	青海湖 151 観光拠点地区開発	南岸斜面へのピクニックランド・観光牧場開発、151 基地再開発(高原地下城・多目的テント・移動博物館・移動遊園地・野外劇場) 二郎剣園地・施設整備、基盤整備事業(域内道路、土地造成、給水、汚水処理、ゴミ処理施設)	75,800	17,478	93,278	28,478	121,756	青海省旅遊集團公司(観光施設:民間) (基盤施設:公)	青海省	共和県・青海湖151基地
観光拠点	主青-2	原子城・金銀灘観光拠点地区開発	原子博物館、公園・広場整備、飲食・販売・娯楽施設整備、金銀灘・東大灘ダム周辺親水園地整備、基盤整備事業(域内道路整備、インフラ整備)	14,500	4,350	18,850	8,079	26,929	海晏県 (観光施設:民間) (基盤施設:公)	海晏県	海晏県・西海鎮/金銀灘
観光拠点	主青-3	沙島観光拠点地区開発	普氏原羚サテライト研究センター、クリーン・エネルギー・パーク、ゲート地区アメニティ施設、親水性・砂漠関連スポーツ・センター整備、白佛寺整備、基盤整備事業(域内道路、インフラ)	20,728	5,303	26,031	25,000	51,031	青海湖自然保護区管理局・海晏県 (観光施設:民間) (基盤施設:公)	海晏県	海晏県・青海湖沙島地区
観光拠点	主青-4	鳥島・背後地区・沙陀寺観光拠点地区開発	野鳥観察施設の改善整備(休憩施設、野生生物博物館、道路・インフラ、文化広場、記念館) 背後地整備・アメニティ施設建設、沙陀寺地区整備・アメニティ施設建設(飲食、宿泊、娯楽、棧橋など) 基盤整備事業(整地・域内道路整備、インフラ整備)	16,795	5,038	21,833	7,884	29,717	青海湖自然保護区管理局・剛察県 (観光施設:民間) (基盤施設:公)	剛察県	鳥島背後地(剛察県・共和県)
観光スポット	補青-5	青海湖観光サーキットの観光スポット整備	17 観光スポット整備事業(表 12.2.4 参照)	49,346	14,804	64,150	16,868	81,018	青海湖自然保護区管理局・関係県 (観光施設:民間) (基盤施設:公)	関係県	その他の観光スポット
観光拠点	主黄-1	カンブラ公園・李家峡観光拠点開発	徳洪ゲート地区整備(ビジターセンター、展望台、展望ゴンドラ、トレッキングルート) 丹霞地貌中央地区整備(休憩所・イベント施設、展望ゴンドラ、トレッキングルート) チベット仏教・南宗寺地区整備(浮棧橋、ビジター施設・修景整備) 李家峡北岸・遊覧地区整備(ビジターセンター、船着場、アメニティ施設) 基盤施設整備事業(アクセス道路整備、水源・給水施設、汚水処理、ゴミ処理施設)	20,325	18,039	38,364	83,636	122,000	カンブラ森林公園・地質公園管理組織・尖扎県・化隆県 (観光施設:民間) (基盤施設:公)	青海省	カンブラ公園・李家峡地区
観光拠点	主黄-2	貴徳観光拠点開発	昨那の新設ダムの前後に船着場・ラフティングセンターを整備、黄河沿岸地区の宿泊施設地区周辺に園地・休憩地整備、貴徳温泉整備(サナトリウム、娯楽・商業施設整備) 基盤整備事業(域内道路、インフラ)	38,231	11,469	49,700	6,637	56,337	貴徳県 (観光施設:民間) (基盤施設:公)	貴徳県	貴徳

プロジェクト				事業費(万元)					関連組織		対象地
分野	コード	名称	事業内容	短期事業			中・長期事業	総事業費計	実施組織	管理組織	
				民間(観光施設等)	公的(基盤等)	合計					
観光拠点	主黄-3	孟達国家自然保護区観光拠点開発	公園内施設整備(登山ルート休憩ポイント整備、既存ホテルの博物館・喫茶店転用)、ゲート周辺地区整備、基盤整備事業(域内道路・ネットワーク整備、ゲート付近のインフラ整備)	4,615	1,385	6,000	3,000	9,000	孟達自然保護区管理組織・循化県(観光施設:民間)(基盤施設:公)	循化県	孟達自然公園
観光拠点	主黄-4	同仁チベット仏教・レゴン文化観光拠点開発	隆務寺・その他寺院保全(修復・補修、園地整備)、レゴン文化芸術村(制作・展示室、レゴン芸術学校、博物館)、基盤整備事業(域内道路、インフラ整備)	6,200	1,860	8,060	3,717	11,777	同仁県(観光施設:民間)(基盤施設:公)	同仁県	同仁宗教・文化地区
観光スポット	補黄-5	黄河観光サーキットの観光スポット整備	31 観光スポット整備事業(表 12.2.5 参照)	25,894	7,768	33,662	45,922	79,584	関係県(観光施設:民間)(基盤施設:公)	関係県	その他拠点
観光拠点	主大-1	北山国家森林公园観光拠点開発	ゲート施設整備(ビジターセンター、自然観察館、地場産・土産品センター)、トレッキングルート・案内板・自然生態ガイド整備、スポーツ・レクリエーション施設整備、基盤施設整備(域内ネットワーク整備、インフラ整備)	4,615	1,385	6,000	3,000	9,000	北山森林公园管理組織・互助県(観光施設:民間)(基盤施設:公)	互助県	北山国家森林公园
観光拠点	主大-2	仙米国家森林公园観光拠点開発	ゲート施設地区整備(ビジターセンター、休憩施設)、園地・散策路整備(ピクニックランド整備とチベット伝説ルート、砂金堀ルート、生態観光ルート等)、基盤整備事業(域内道路整備、インフラ整備)	3,892	1,168	5,060	1,723	6,783	仙米森林公园管理組織・門源県(観光施設:民間)(基盤施設:公)	門源県	仙米森林公园
観光拠点	主大-3	浩門鎮・青口嘴鎮観光拠点開発	観光スポット整備(浩門古城、二唐溝景区、万里の長城スポット等の歴史地区周辺整備)、菜の花畑周辺整備(休憩・地場産品即売所整備)、基盤整備事業	11,692	3,508	15,200	1,674	16,874	門源県(観光施設:民間)(基盤施設:公)	門源県	浩門鎮周辺
観光拠点	主大-4	大通・大阪山周辺観光拠点開発	察汗河森林公园地区の園地・散策路整備、民族風情村周辺の修景整備、基盤整備事業(域内道路、インフラ整備)	5,150	1,545	6,695	1,674	8,369	大通県・察汗河森林公园管理組織(観光施設:民間)(基盤施設:公)	西寧市・大通県	大阪山周辺
観光スポット	補大-5	祁連山観光サーキットの観光スポット整備	14 観光スポット整備事業(表 12.2.6 参照)	10,785	3,235	14,020	9,090	23,110	関係県(観光施設:民間)(基盤施設:公)	関係県	その他拠点
宿泊施設	宿泊-1	5 星ホテル開発:短期開発	5 星ホテル 2,998 室を西寧市、151、同仁等の観光拠点を中心に開発・整備	200,866	60,260	261,126		261,126	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内
宿泊施設	宿泊-2	4 星ホテル開発:短期開発	4 星ホテル 5,533 室を上記同様に観光拠点を中心に開発・整備	188,122	56,437	244,559		244,559	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内
宿泊施設	宿泊-3	3 星ホテル開発:短期開発	3 星ホテル 7,396 室を宿泊施設整備を図る観光拠点・観光スポットに開発・整備(社会旅館の再整備・登録を含む)	125,732	37,720	163,452		163,452	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内
宿泊施設	宿泊-4	2 星ホテル開発:短期開発	2 星ホテル 6,334 室を 3 星ホテル同様に開発・整備(社会旅館の再整備・登録を含む)	44,338	13,301	57,639		57,639	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内
宿泊施設	宿泊-5	1 星ホテル開発:短期開発	1 星ホテル 4,820 室を 3 星ホテル同様に開発・整備(社会旅館の再整備・登録を含む)	21,690	6,507	28,197		28,197	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内
宿泊施設	宿泊-6	テント村整備:短期開発	1,350 張りのテント村を自然系観光スポット、及び拠点に開発・整備	2,025		2,025		2,025	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内
宿泊施設	宿泊-7	民宿整備:短期開発	民宿(農家楽)5,000 室を農村観光や民族風情観光を目指す拠点に促進(開設・営業指導、研修制度、施設整備・機材調達のための融資制度導入)	5,000		5,000		5,000	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内
宿泊施設	宿泊-8	5 星ホテル開発:中長期開発	5 星ホテル 2,695 室を沙島・鳥島・151・カンブラ・同人・浩門鎮等の観光拠点を中心に開発・整備				234,735	234,735	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内
宿泊施設	宿泊-9	4 星ホテル開発:中長期開発	4 星ホテル 1,390 室を 5 星ホテル同様に開発・整備				61,438	61,438	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内

プロジェクト				事業費(万元)					関連組織		対象地
分野	コード	名称	事業内容	短期事業			中・長期事業	総事業費計	実施組織	管理組織	
				民間(観光施設等)	公的(基盤等)	合計					
宿泊施設	宿泊-10	3星ホテル開発：中長期開発	3星ホテル2,085室を、宿泊施設整備を増強する観光拠点・観光スポットに開発・整備				46,079	46,079	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内
宿泊施設	宿泊-11	2星ホテル開発：中長期開発	2星ホテル738室を3星ホテル同様に開発・整備				6,716	6,716	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内
宿泊施設	宿泊-12	1星ホテル開発：中長期開発	1星ホテル43室				252	252	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内
宿泊施設	宿泊-13	テント村整備：中長期開発	500張りのテント村を、自然系観光スポット及び拠点に追加整備				750	750	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内
宿泊施設	宿泊-14	民宿整備：中長期開発	民宿(農家楽)2,550室を、農村観光や民族風情観光を目指す観光スポットや拠点に促進(開設・営業指導、研修制度、施設整備・機材調達のための融資制度導入)				2,550	2,550	ホテル(民間)基盤(公)	省・市・県旅遊局	環西寧圏内
環境保全	環境-1	生態観光・環境管理体制整備	環境教育(地域の児童、小中学生、青年、農牧民、観光客へ環境情報の提供や生態環境保全への啓発) 環境管理(観光エリアの風致や植被の管理、駐車場管理)		36	36	72	108	自然環境保護局・地方自治体	自然環境保護局	環西寧圏内
環境保全	環境-2	草地改善・回復事業	日月山を始めとする観光地区の牧草地保全事業(植被再生計画の作成と雇用農牧民各自の頭数制限の遵守状況、 計画より早く植被再生目標を達成した農牧民へのボーナスの支給、 雇用農牧民に応じた環境管理事業作業の配分、 観光事業参入への指導)		62	62	124	186	農牧庁・地方自治体	農牧庁	湟源県・日月山藏族郷
環境保全	環境-3	観光サーキット景観保全	観光サーキット沿道左右両側500mの牧草地・森林資源保全と沿道景観保全事業		1,018	1,018	2,036	3,054	農牧庁・自然環境保護局・地方自治体	農牧庁・自然環境保護局	環西寧圏内
環境保全	環境-4	展望スポット景観保全	展望スポットからの近景・中景・遠景の景観保全事業		471	471	942	1,413	農牧庁・自然環境保護局・地方自治体	農牧庁・自然環境保護局	環西寧圏内
環境保全	環境-5	観光・美化の街キャンペーン	景観保全ガイドライン作成、景観アドバイザー制度、ボランティア活動支援(清掃用資機材供与、花木・草花の苗提供、顕彰補助金)		344	344	688	1,032	旅遊局・建設庁・地方自治体	旅遊局	環西寧圏内
環境保全	環境-6	青海湖水質保全事業	青海湖流域に位置する町・集落の汚水処理、ゴミ処理施設の拡充整備		12,510	12,510		12,510	地方自治体	環境庁	海晏・剛察・共和県
遺産保全	遺産-1	考古遺産保全・観光利用	門源県・祁連山の中華文明の古城、吐谷渾・吐蕃遺跡・壁画、柳湾などの古代遺跡の保全・活用(考古調査、保全計画策定、保護事業、観光利用事業・園地修景整備・小規模観光施設整備・情報案内板整備等)		3,000	3,000	9,000	12,000	文化庁・旅遊局・自治体	文化庁	門源・祁連・剛察・共和・大通県等
遺産保全	遺産-2	歴史的街並み保全事業	住民参加による保全計画策定、街路・舗装・街路照明・ストリートファニチャー・情報案内板整備、沿道公共施設整備、個人所有建物修復・立替・観光事業補助金制度等、 貴徳県都・河明鎮：歴史的遺産・王皇寺の修復・保護を中心に城壁で囲まれた街区の街並み保全、 同仁県・レゴン文化郷：県都・隆矛鎮の隆務寺、年都平郷の吾屯上寺や吾屯下寺等の大規模寺院の修復・保護を中心に、隆矛河沿い約3kmの歴史的風土保全、 湟源県都・城関鎮：歴史的遺産・城隍廟(道教寺院)の修復・保護と門前街区の街並み保全、 湟中県都・魯沙爾鎮：歴史遺産タール寺の修復・伽藍再建を中心に周辺地区の歴史的な風土保全、 西寧市・城中区・文廟の修復・保護を中心に周辺街区の街並み保全		3,532	3,532	4,525	8,057	文化庁・旅遊局・建設庁・自治体	文化庁	湟源・湟中・貴徳・同仁・西寧市など
市場開発	市場-1	プロモーション素材の刷新・新規作成	国内市場向けプロモーション素材(現行・青海省旅遊図・総集編1版・3元/冊、面・点・線ルート別、テーマ別の編集の総集編)		5,285	5,285	10,570	15,855	旅遊局+旅行業界(+地方自治体)	旅遊局	環西寧圏内・青海省

プロジェクト				事業費(万元)				関連組織		対象地	
分野	コード	名称	事業内容	短期事業			中・長期事業	総事業費計	実施組織		管理組織
				民間(観光施設等)	公的(基盤等)	合計					
			1版、サイズは現行・青海省旅遊図、テーマ別特化版:「自然・景観探勝・休暇・余暇活動」と「宗教・民族文化探訪」の2版) 海外同胞市場向け(国内客向けを総集編1版に統合編集、ただし「シルクロード連絡」「チベット連絡」ルート)、海外市場向け(内容は同じ、言語は日本語・韓国語・英語) 青海観光「旅行企画・販促マニュアル」の制作								
市場開発	市場-2	宣伝ポスターの刷新	TV 宣伝 CM の宣伝コピー・表現・イメージ絵柄を取り込み、それらとリンクした新しいフルサイズ・ポスターの制作、関係組織・企業との共同制作・スポンサー化(省・市・航空・鉄道・観光業界)		12,650	12,650	25,300	37,950	旅遊局+旅行・交通業界(+地方自治体)	旅遊局	環西寧圈内・青海省
市場開発	市場-3	観光ニュースレターの発刊	季刊ニュースレター、月間ニュースレター、主要市場にダイレクト・メール送付(近隣省自治区・特別市・沿海省の関係業界旅行・宿泊・運輸など)		105	105	210	315	旅遊局+旅行業界	旅遊局	環西寧圈内・青海省
市場開発	市場-4	宣伝・販促 DVD の制作	宣伝・販促 DVD を用意し、旅行見本市等での宣伝・販促ツールとして活用		325	325	650	975	旅遊局+旅行業界	旅遊局	環西寧圈内・青海省
市場開発	市場-5	旅遊見本市での販売促進	主要見本市昆明・桂林に焦点を当てる、北京、済南、大連、広州見本市を従とする、大型代表団・歌舞・アトラクションも同行、特設ブースの借り上げ、商談ツールとしての具体的な観光プロダクト・パッケージ、販促マニュアルなど素材を準備		320	320	640	959	旅遊局+旅行業界	旅遊局	環西寧圈内・青海省
市場開発	市場-6	視察・招待旅行の実施	戦略的・先行投資的な招待・視察旅行(FAM tour)を、主要市場省のメディア(新聞・TV・雑誌) 旅行業者を対象に新観光地・新観光ルートなど視察の機会を提供		828	828	1,655	2,483	旅遊局+旅行業界	旅遊局	環西寧圈内・青海省
市場開発	市場-7	タイアップ・共同キャンペーンの展開	青海省旅遊局・旅遊協会・関係業者の総力をあげて共同キャンペーンを企画・制作・実施(先進地区の宣伝・媒体業者の専門的ノウハウ・ネットワークを利用)		1,250	1,250	2,500	3,750	旅遊局+旅行業界	旅遊局	青海省・近隣省
市場開発	市場-8	特別市・沿海省の青海省連絡事務所の活用	専任の観光宣伝・販促担当者を置き、特別市・沿海省区の市場動向情報収集、さらには定期的に顕在・潜在の市場開拓セールス・コールに当たらせる。		660	660	1,320	1,980	旅遊局	旅遊局	青海省
市場開発	市場-9	共同宣伝販促活動「新奇大西北」キャンペーンの強化	西北5章区に基づく「タイアップ・ツアー・パッケージ」の造成・販売		276	276	552	828	旅遊局+近隣省	旅遊局	青海省・近隣省
市場開発	市場-10	近隣観光先進地の視察・学習・研修	先進・成功事例の視察・学習・研修の機会を設け、ノウハウを吸収		164	164	328	492	旅遊局+観光業界+近隣省	旅遊局	青海省・近隣省
市場開発	市場-11	インターネット活用の拡充	ウェブサイトのコンテンツの拡充、宿泊施設(星級ホテル・民宿・民族村・テント村)紹介の拡充と予約システム、観光施設		52	52	26	78	旅遊局+観光業界	旅遊局	環西寧圈内・青海省
市場開発	市場-12	観光案内所設置	観光地、費用、天候、交通等に関する情報提供、省旅行業者のパンフレットや広告の配布、公共交通機関や宿泊施設の予約と購入、最新の安全情報の提供、苦情窓口の設置		202	202	404	606	旅遊局+観光業界	旅遊局	西寧市
実施・管理	管理-1	事業アドバイザー制度	旅遊局が実施・管理する観光開発計画・事業に対する適切な助言を得るための専門家によるノウハウの導入		710	710	1,420	2,130	旅遊局+観光業界	旅遊局	環西寧圈内・青海省
実施・管理	管理-2	省旅遊局の体制強化	人事教育部と職員研修制度の拡充		48	48	96	144	旅遊局	旅遊局	青海省
実施・管理	管理-3	「対口支援」(パートナーシップ)促進事業	「対口支援」パートナーである遼寧省・上海市浦東新区の協力を得て、実施の可能性の高い観光開発計画、及び F/S を作成すると共に、投資を誘致する		175	175	350	525	旅遊局+青海省+観光業界	旅遊局	環西寧圈内・青海省

プロジェクト				事業費(万元)				関連組織		対象地	
分野	コード	名称	事業内容	短期事業			中・長期事業	総事業費計	実施組織		管理組織
				民間(観光施設等)	公的(基盤等)	合計					
実施・管理	管理-4	観光開発公社機能の強化(青海省旅遊集團公司)	国内の政策金融機関・国際金融機関から融資と投資を組み合わせた長期・低利の観光基盤施設投資のための資金を調達し、「青海省観光産業基金」を創設・運営する。					0	青海省旅遊集團公司(省旅遊局)	旅遊局	環西寧圈・青海省
実施・管理	管理-5	観光開発投資促進セミナー	投資優遇策を見直し、公的な観光基盤整備・生活環境整備による投資環境の改善策、省内外からの観光開発投資促進セミナーの開催(西寧及び「対口支援」地区等)		498	498	995	1,493	旅遊局+青海省+観光業界	旅遊局	環西寧圈・青海省
人材育成	人材-1	大学・観光本科の定員拡大	観光業の経営者・責任者・監督者660名の養成(16,000元/人)		1,056	1,056		1,056	青海大学、青海師範大学、青海民族学院	教育庁	西寧市
人材育成	人材-2	大学・観光専科の定員拡大	観光現場監督者及び専門家600名の養成(12,000元/人)		720	720		720	青海大学、青海民族学院	教育庁	西寧市
人材育成	人材-3	職業学校の定員拡大	観光業の11,040名の現場監督者・現場担当者の養成(6,000元/人)		6,624	6,624		6,624	新世紀職業学校、青海交通職業技術学校、西寧第一職業学校、西寧国際商務旅遊学校	教育庁	西寧市
人材育成	人材-4	西寧ホテル研修センターの拡充	観光業1,000名の現場担当者の養成(500元/人)		50	50		50	西寧ホテル	旅遊局	西寧市
人材育成	人材-5	大学・職業学校の教員再教育	研修、及び教育・訓練プログラムの見直し・拡充		8	8	16	24	上記の大学、及び職業学校	教育庁	西寧市
人材育成	人材-6	ホテル従業員再訓練	ホテルの訓練指導員を対象とした先進地域への派遣(2週間)及び先進地域の訓練指導員による訓練(2ヵ月程度、フロント・客室・レストラン・経理・保守管理)		13	13	27	40	旅遊局+観光業界	旅遊局	環西寧圈
人材育成	人材-7	観光ガイドの教育	初級ガイド向けの研修(実地研修、ロールプレイングを含む)及び語学講座		4	4	7	11	旅遊局+観光業界	旅遊局	環西寧圈
人材育成	人材-8	インタープリター養成	既存ガイド(カンブラ国家地質公園、北山国家森林公园・仙米国家森林公园、孟達国家自然保護区)の高度化、及び新規ガイド養成		9	9	18	27	各管理局+旅遊局	各管理局+旅遊局	環西寧圈
合計					1,189,639	413,551	1,603,190	880,794	2,483,984		
分野				2006-2010		2011-2020		合計			
観光拠点開発				426,190	26.6%	228,717	20.3%	654,907	24.0%		
観光スポット開発				175,676	11.0%	235,088	20.9%	410,764	15.1%		
宿泊施設整備				587,773	36.7%	352,518	31.3%	940,291	34.5%		
観光施設投資合計				1,189,639	74.2%	816,323	72.5%	2,005,962	73.5%		
基盤施設整備事業				360,548	22.5%	244,897	21.8%	605,445	22.2%		
環境保全				14,441	0.9%	3,862	0.3%	18,303	0.7%		
歴史遺産保全				6,532	0.4%	13,525	1.2%	20,057	0.7%		
市場開発				22,116	1.4%	44,154	3.9%	66,270	2.4%		
実施・管理体制強化				1,431	0.1%	2,861	0.3%	4,292	0.2%		
人材育成				8,484	0.5%	68	0.0%	8,552	0.3%		
総計				1,603,190	100.0%	1,125,691	100.0%	2,728,881	100.0%		

表 12.2.3 補西-3：西寧観光拠点都市の観光スポット整備事業リスト

図中番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容
西.1	紅軍西軍記念館	城中区	記念館整備
西.5	西寧城跡修復	城中区	城壁の修復・保護・環境整備
西.13	虎台修復・ホテル開発	城西区	古代練兵場・指揮台整備, 及び新規 18 階 3,000m ² のホテル建設
西.14	蘇家河湾薬水泉	城西区	泉周辺地区の環境整備・園地整備
西.18	青海国際絨毯センター	城南区	絨毯の展示・販売施設整備
西.27	文廟	城東区	建物の保全・歴史的街区整備
湟.1	タール寺周辺(魯沙尔鎮、 葯水灘、南佛山)	魯沙尔鎮	タール寺道路・環境整備、文化・娯楽 施設整備
湟.2	蓮花山(湖)旅遊風景区	魯沙尔鎮	タール寺周辺の湖畔の文化・娯楽施設 整備
湟.3	南佛(朔)山景区	多巴鎮	タール寺周辺の文化・娯楽施設整備
湟.4	扎麻隆~多巴旅遊区	多巴鎮	道教建築・文化観光スポット整備
大.1	北川河旅遊觀光帯	大通県城 (橋頭鎮)	緑地帯、彫塑、娯楽施設(レクリエー ション)、食飲店、観光亭、観光長廊、 水上釣堀、遊船娯楽施設など
大.2	老斧山風景名勝区	大通県城 (橋頭鎮)	前後山道路舗装、遊歩道、長廊、駐車 場、インフラ施設など
大.3	娘娘山生態旅遊区	大通県城 (橋頭鎮)	3 級道路改善、登山路、駐車場、イン フラ施設
大.5	長城観光	大通県城 (橋頭鎮)	アクセス道路、駐車場、観光案内板、 園地整備など
源.1	日月山景区(第二期整備)	日月蔵族郷	散策路、蔵族文化館、接待施設、石刻 走廊など
源.2	茶馬互市古建築一条街	城美鎮	建築補修・復元、歩道、インフラ施設 など
源.6	湟源古城	城美鎮	城壁、及び古建築の保全、観光利用
源.8	湟源城隍廟	城美鎮	伝統宗教神社の修景、観光利用
楽.2	彩陶博物館	高苗鎮	彩陶博物館拡張整備
楽.3	柳湾墓地	高苗鎮	新石器・青銅時代の文化遺跡周辺の修 景・施設整備など
楽.5	瞿曇寺	瞿曇鎮	寺院修復、修景整備など
民.2	松山原始森林風景区	西溝郷	道路改善、景点修景、便所など
民.3	西溝自然風景区	西溝郷	道路改善、景点修景、便所など
民.4	麻地溝刀山	古善鎮	道路改善、景点修景、便所など
民.6	七里寺自然風景区	古善鎮	道路改善、景点修景、便所など、 世界 4 大良質ミネラルウォーター
短期事業 116,547 万元 (観光施設整備 89,652 万元 / 基盤整備事業 26,895 万元)			
西.7	青海生態農林山荘	城北区	改築
西.9	西寧自然公園	城南区	45ha (680 苗) 都市公園整備
西.12	手作り絨毯館	城南区	手作り絨毯づくり見学、展示・販売施 設整備
西.19	西寧科技館	城南区	科学技術展示、体験館(3ha)の整備
西.20	東関イスラム寺院	城東区	建物修復・保全・観光利用
西.21	北禅寺「九窟十八」修復	城北区	石窟の修復、環境整備
西.26	沈那遺跡二期整備	城北区	緑化、環境整備、原始部落館建設等
湟.5	上五庄李家山旅遊区	上五庄鎮、	古代歴史観光スポット(峠約文化の古

図中番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容
		李家山鎮	墳と彩陶土器等)
湟. 6	群加生態旅遊区	群加藏族郷	文化・娯楽施設、群加営林場、積雪地帯、峡谷、山峰、原始森林景観整備
湟. 7	多巴高原国家体育訓練基地	多巴鎮	国際的な高地スポーツ観光施設整備・トレーニングセンター再整備
湟. 8	上新庄薬水泉	上新庄鎮	山水レジャー、「紅河原」ミネラルウォーター水源地整備
湟. 9	扎麻隆鳳凰山	多巴鎮	九天玄女生誕地、崑崙文化の重要要素のスポット整備
大. 4	建国東路旅遊お土産買物一条街	建国東路 (橋頭鎮)	総合市場、駐車場など
大. 6	青海アルミニウム工業有限公司	大通県城 (橋頭鎮)	工場見学施設整備(産業観光、児童・生徒の産業見学)
大. 7	大通県国家森林公园鷓子溝景区	東峡鎮	観光3級道路、4級支線路、景区観光歩道、駐車場、インフラ施設
大. 8	広恵寺民俗宗教旅遊一条街	東峡鎮	広恵寺～大通国家森林公园道路改善、商店街改善、山門、駐車場など
源. 3	大黒溝生態旅遊景区	東峡郷	景区内道路、インフラ、飲食、娯楽、休憩、テントなど
源. 4	貨石山探検旅遊景区	日月藏族郷	道路、インフラ施設、飲食・宿泊施設など
源. 5	夏都径地雪域風情園	城郊郷薫家庄村	蔵式建築・展示館、テント、記念館、娯楽・飲食施設など
源. 7	扎蔵寺	寺寨郷	チベット仏教寺院の修景、観光利用
互. 5	祐寧寺宗教観光朝観旅遊渡假区	五十郷寺灘村	歴代高僧大徳記念館修復、展示館、現有殿堂修復、大門修復
互. 6	五峰山青海「民歌(花卉)苑」	五峰郷、北多腦村	大型「花卉」演唱表演区修復、民歌資料展示館、山門
互. 7	南門峡旅遊渡假区	南門峡水庫区	主要建設渡假区別野群、旅遊観光、魚釣り場
互. 9	白馬寺	紅崖子澤口	チベット仏教寺院の保全・利用
楽. 1	新楽公園	展伯鎮	公園、大門、記念塔など
楽. 4	長里民俗村	高苗鎮	民俗村、苹果園休閒施設など
楽. 6	瞿曇寺周辺区	瞿曇鎮	瞿曇寺周辺生態環境建設、薬草台森林遊歩道、瞿曇民俗村、薬草台寺維修、チベット医薬
楽. 7	七里店黄河灯	崗溝鎮	湟水と併走する国道沿いにライトアップ
楽. 8	上北山森林公园、倉家峡登山線路	引勝郷	上北山省森林公园の登山道路、エコツアー関連施設など
楽. 9	西来寺	展伯鎮	古典漢庭園式宗教施設、博物館など
民. 1	桃花園林区	川口鎮	道路改善、景点修景、便所など
民. 5	古都古城	川口鎮	道路改善、景点修景、便所など
民. 7	馬場垣遺跡	馬場垣郷	国家級重要文化財
民. 8	三川土族風情		民族風情村開発・整備
中長期事業 163,208 万元			
事業費合計 279,755 万元			

表 12.2.4 補青-5：青海湖観光サーキットの観光スポット整備事業リスト

図中番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容
共. 2	日月山～倒淌川景区	倒淌川鎮	「貨夏牧苑」、ホテル、情報センター、小泊湖周辺整備、倒淌河街づくり
剛. 2	沙柳河鎮観魚長廊、及び民俗風情村	沙柳河鎮	水上廊下、風情渡假村、剛察賓館改善 3 星、文化広場改善、沙柳河至青海湖湿地道路など
剛. 4	観光農場（国营）	沙柳河鎮	観光農業、宿泊施設
短期事業 64,150 万元： 観光施設整備 49,346 万元 / 基盤整備事業 14,804 万元			
海. 4	夏格日山	甘子河郷	夏山登山・トレッキング施設、記念碑など
海. 5	白佛寺	青海湖郷	チベット黄教寺院（大規模伽藍配置）の修景と観光利用
海. 6	東大灘ダム	金灘郷	人造湖の湖畔園地整備
共. 4	恰卜恰温泉度假区	恰卜恰鎮	温泉利用の休暇村
共. 5	海心山、三枚石	恰卜恰鎮	野鳥、道教
共. 6	湖東種羊場	倒淌河鎮	観光牧場（生態観光を含む）
共. 7	伏俟城	石乃亥郷	アクセス路と周辺の修景・案内板整備
剛. 3	瓦彦山旅游区	哈尔盖郷	公共駐車場、瓦彦山賓館 2 星など
剛. 6	布哈河	吉尔孟郷	生態観光路整備（湟魚の遡上）
剛. 7	剛察大寺	沙柳河鎮の北 40km	駐車場、観光サービス施設、案内板など
剛. 9	哈龍岩画	泉吉郷	アクセス道路・案内板
中長期事業 16,864 万元			
事業費合計 81,018 万元			

表 12.2.5 補黄-5：黄河観光サーキットの観光スポット整備事業リスト

図中番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容
化. 2	八宝山旅游区	雄先蔵族郷・查甫蔵族郷	観光サーキット沿いの接待・サービス施設など
化. 3	公伯峡旅游区	甘都鎮	訪問者センター、賓館、娯楽施設、インフラ施設など
化. 8	康揚下流 - 公伯峡水上旅遊	康揚ダム（公伯峡ダム）	旅遊船、棧橋など
貴. 7	貴徳温泉	羊峡外口	温泉ホテル
共. 3	龍羊峡景区	龍羊峡鎮	道路・インフラ、水遊び施設、娯楽・飲食・サービス施設、河下り拠点、展望・休憩所
循. 1	サラ族民俗村	積石鎮	棧橋、遊覧船、河川道路、河川敷休暇村など（近中期）
循. 2	サラ人伝統家屋	積石下草・延伸至街子・清水・孟辻郷	伝統的家屋保存、道路、駐車場など
循. 3	旅遊産品	街子郷團結村	物産展示館、周辺修景、プロダクト開発など
循. 6	清水サラ民俗旅遊村	清水郷	村内道路改善、商業・サービス施設、民俗館・広場など

図中番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容
尖.3	カンブラ鎮	カンブラ鎮	棧橋、旅遊プロダクト一条街、バスターミナル・チケット売場など
同.8	蘭采薬浴温泉山荘	蘭采郷	山荘、道路・インフラ施設など
短期事業 33,662 万元： 観光施設整備 25,894 万元 / 基盤整備事業 7,768 万元			
化.5	昂思多神区旅遊療養地	昂思多鎮	サナトリウム、保健所、インフラ施設など
化.6	馬明山避暑休暇旅遊区	巴燕鎮北部 (瞿曇寺道路)	蒙古式テント、射撃場、飲食施設、道路・インフラ施設など
化.7	合群峡旅遊区	謝家灘郷	ダム周辺の修景・美化、娯楽・飲食施設、車両など
循.4	綠色家園遊客接待中心	積石鎮	接待中心地など
循.7	十世班禅故居	文都蔵族郷	アクセス路、駐車場、案内施設など
循.8	喜饒法師足跡探訪	道張蔵族郷	ルート整備
循.9	積石峡丹霞地貌	積石鎮	
尖.4	馬克唐鎮	馬克唐鎮	棧橋、尖扎県文化宣伝中心、尖扎県文化公園、スポーツ観光施設整備会館など
尖.5	黄河沿別荘地・休暇村	黄河沿	別荘地、休暇村など
同.5	重点民族村賽保全整備	郭麻日村他 4 村	サナトリウム、保健所、インフラ施設など
同.7	曲庫乎温泉山荘	曲庫乎鎮	アクセス道路、接待・サービス施設など、ミネラルウォーター、森林景観
中長期事業 45,922 万元			
事業費合計 79,584 万元			

表 12.2.6 補祁-5：祁連山観光サーキットの観光スポット整備事業リスト

図中番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容
門.1	寺溝森林浴場	珠固郷	展望塔、森林浴、民俗風情館等
門.8	ガンシカ雪峰登山探検旅遊	皇城蒙古族郷	登山・キャンプ場、登山訓練基地、環境整備、接待・サービス施設
門.10	永安城影視外景拍攝基地	皇城蒙古族郷	道路・インフラ、古城の城壁保全、観光サービス施設、環境整備など
門.11	古遺跡開発保全	峨堡、扎麻什地区	遺跡保全、道路・環境整備、小型展示館、接待施設など
祁.4	八宝旅遊区	八宝鎮	スキー場・ロープウェイ、休暇村、接待施設、道路・インフラ施設、筏など、祁連山森林公園
短期事業 14,020 万元： 観光施設整備 10,785 万元 / 基盤整備事業 3,235 万元			
門.3	回族民族村	浩門鎮	商店、駐車場など
門.9	花海鷺鳥風景区(乱海子)	皇城蒙古族郷	野鳥観測園、民族風情園、博覧館、接待施設、道路・インフラなど
祁.2	寺院旅遊開発保全	峨堡、阿柔、八宝地区	寺院保全、環境整備など
祁.3	小東草旅遊風情区	阿柔郷小東草溝内	水泳プール、テント、商店、道路・インフラ施設など
祁.5	黒河大峡谷	八宝鎮来道溝	道路・インフラ施設、筏など

図中番号	開発プロジェクト名	場所	整備内容
祁. 6	アジア最大野生美鹿基地	半野生美鹿場、油葫芦自然保護区	貧寒、商業・サービス、博物館、道路・インフラ、レクリ施設など
門. 11	高原生物・地学研究基地	皇城蒙古族郷	中国科学院の自然観察・研究所
中長期事業 9,090 万元			
事業費合計 23,110 万元			

12.3 実施スケジュール

プロジェクト実施スケジュールは表 12.3.1 のようになる。

表 12.3.1 環西寧圈觀光開發プロジェクト実施スケジュール

	事業準備（詳細計画、実施設計、資金調達など）
	事業実施（建設、拡張、改善など）
	事業運営

分野	コード	名称	実施組織	短期					中期	長期
				2006	2007	2008	2009	2010	2011 - 2015	2016 - 2020
観光拠点	主西-1	西寧観光拠点都市開発	西寧市（観光施設：民間/基盤施設：公）	計画・設計	観光拠点都市開発と観光スポットの開発・運営・質の向上					
観光拠点	主西-2	互助民族旅遊区観光拠点開発	互助県（観光施設：民間/基盤施設：公）	計画・設計	土族民族風情観光拠点開発・運営・質の向上					
観光スポット	補西-3	西寧観光圏の観光スポット整備事業	関係市・県（観光施設：民間/基盤施設：公）	計画・設計	多様な観光スポットの開発・運営・質の向上					
観光拠点	主青-1	青海湖 151 観光拠点地区開発	青海省旅遊集團公司（観光施設：民間/基盤施設：公）	詳細設計	高原リゾート拠点と観光スポット・施設の開発・運営・質の向上					
観光拠点	主青-2	原子城・金銀灘観光拠点地区開発	海晏県（観光施設：民間/基盤施設：公）	既定計画で開発・運営・質の向上						
観光拠点	主青-3	沙島観光拠点地区開発	青海湖自然保護区管理局・海晏県（観光施設：民間/基盤施設：公）	生態調査・保護計画	保護計画で見直し、生態観光拠点施設の開発・運営を継続的に拡充、西蔵鉄道との連携					
観光拠点	主青-4	鳥島・背後地区・沙陀寺観光拠点地区開発	青海湖自然保護区管理局・剛察県（観光施設：民間/基盤施設：公）	計画・設計	鳥島・卵島核心区の保護、背後地・沙陀寺地区の開発・運営・質の向上					
観光スポット	補青-5	青海湖観光サーキットの観光スポット整備	青海湖自然保護区管理局・関係県（観光施設：民間/基盤施設：公）	計画・設計	継続的に観光スポット開発・改善を進め、多様化を図る。					
観光拠点	主黄-1	カンブラ公園・李家峡観光拠点開発	カンブラ森林公園・地質公園管理組織・尖扎県・化隆県（観光施設：民間/基盤施設：公）	詳細設計	カンブラセンター（尖扎県）李家峡センター（化隆県）開発とネットワーク開発・運営・質の向上					
観光拠点	主黄-2	貴徳観光拠点開発	貴徳県（観光施設：民間/基盤施設：公）	計画・設計	開発・運営・質の向上					
観光拠点	主黄-3	孟達国家自然保護区観光拠点開発	孟達自然保護区管理組織・循化県（観光施設：民間/基盤施設：公）	保護計画 計画・設計	ゲート地区開発・運営、実験区内ネットワーク整備、生態観光改善					
観光拠点	主黄-4	同仁チベット仏教・レゴン文化観光拠点開発	同仁県（観光施設：民間/基盤施設：公）	計画・設計	同仁風土保全事業と連携した施設開発・運営・商品の質の改善					
観光スポット	補黄-5	黄河観光サーキットの観光スポット整備	関係県（観光施設：民間/基盤施設：公）	計画・設計	継続的に観光スポット開発・改善を進め、多様化を図る。					
観光拠点	主大-1	北山国家森林公园観光拠点開発	北山森林公园管理組織・互助県（観光施設：民間/基盤施設：公）	計画・設計	生態観光スポットとネットワーク整備、スポーツ・レクリエーション施設整備					
観光拠点	主大-2	仙米国家森林公园観光拠点開発	仙米森林公园管理組織・門源県（観光施設：民間/基盤施設：公）	計画・設計	チベット文化・伝承、生態観光スポットとネットワーク整備					
観光拠点	主大-3	浩門鎮・青口嘴鎮観光拠点開発	門源県（観光施設：民間/基盤施設：公）	計画・設計	観光拠点・スポット開発・運営・質の向上					
観光拠点	主大-4	大通・大阪山周辺観光拠点開発	大通県・察汗河森林公园管理組織（観光施設：民間/基盤施設：公）	計画・設計	観光拠点・スポット開発・運営・質の向上					
観光スポット	補大-5	祁連山観光サーキットの観光スポット整備	関係県（観光施設：民間/基盤施設：公）	計画・設計	継続的に観光スポット開発・改善を進め、多様化を図る。					
宿泊施設	宿泊-1/8	5 星ホテル開発	ホテル（民間） 基盤（公）							
宿泊施設	宿泊-2/9	4 星ホテル開発	ホテル（民間） 基盤（公）							
宿泊施設	宿泊-3/10	3 星ホテル開発	ホテル（民間） 基盤（公）							
宿泊施設	宿泊-4/11	2 星ホテル開発	ホテル（民間） 基盤（公）							
宿泊施設	宿泊-5/12	1 星ホテル開発	ホテル（民間） 基盤（公）							
宿泊施設	宿泊-6/13	テント村整備	ホテル（民間） 基盤（公）							
宿泊施設	宿泊-7/14	民宿整備	ホテル（民間） 基盤（公）							
環境保全	環境-1	生態観光・環境管理体制整備	自然環境保護局・地方自治体	事業計画	環境教育、モニタリング・管理					
環境保全	環境-2	草地改善・回復事業	農牧庁・地方自治体	計画・体制	住民参加による草地改善・回復事業計画の作成、実施					
環境保全	環境-3	観光サーキット景観保全	農牧庁・自然環境保護局・地方自治体	計画・体制	住民参加による景観保全体制・事業計画づくり、実施					
環境保全	環境-4	展望スポット景観保全	農牧庁・自然環境保護局・地方自治体	計画・体制	展望地整備と連携した住民参加による景観保全体制・事業計画づくり、実施					
環境保全	環境-5	観光・美化の街キャンペーン	旅遊局・建設庁・地方自治体	計画・体制	住民参加による観光・美化キャンペーン体制・プログラムづくり、実施					

分野	コード	名称	実施組織	短期					中期	長期
				2006	2007	2008	2009	2010	2011 - 2015	2016 - 2020
環境保全	環境-6	青海湖水質保全事業	地方自治体	計画・設計	排水管路・処理施設整備					
遺産保全	遺産-1	考古遺産保全・観光利用	文化庁・旅遊局・自治体	考古調査	保護事業と観光利用事業の実施					
遺産保全	遺産-2	歴史的街並み保全事業	文化庁・旅遊局・建設庁・自治体	計画・体制	住民参加による街並み保全計画・体制・プログラムづくり、実施					
市場開発	市場-1	プロモーション素材の刷新・新規作成	旅遊局+旅行業界(+地方自治体)							
市場開発	市場-2	宣伝ポスターの刷新	旅遊局+旅行・交通業界(+地方自治体)							
市場開発	市場-3	観光ニュースレターの発刊	旅遊局+旅行業界							
市場開発	市場-4	宣伝・販促DVDの制作	旅遊局+旅行業界							
市場開発	市場-5	旅遊見本市での販売促進	旅遊局+旅行業界							
市場開発	市場-6	視察・招待旅行の実施	旅遊局+旅行業界							
市場開発	市場-7	タイアップ・共同キャンペーンの展開	旅遊局+旅行業界							
市場開発	市場-8	直轄市・沿海省の青海省連絡事務所活用	旅遊局							
市場開発	市場-9	共同宣伝販促活動「新奇大西北」キャンペーンの強化	旅遊局+近隣省	計画・準備						
市場開発	市場-10	近隣観光先進地の視察・学習・研修	旅遊局+観光業界+近隣省							
市場開発	市場-11	インターネット活用の拡充	旅遊局+観光業界							
市場開発	市場-12	観光案内所設置	旅遊局+観光業界	計画・準備	整備					
実施・管理	管理-1	事業アドバイザー制度	旅遊局+観光業界							
実施・管理	管理-2	省旅遊局の体制強化	旅遊局							
実施・管理	管理-3	「対口支援」(パートナーシップ)促進事業	旅遊局+青海省+観光業界	協議・準備						
実施・管理	管理-4	観光開発公社機能の強化	青海省旅遊集团公司(省旅遊局)	協議・準備						
実施・管理	管理-5	観光開発投資促進セミナー	旅遊局+青海省+観光業界							
人材育成	人材-1	大学・観光本科の定員拡大	青海大学、青海師範大学、青海民族学院	計画・準備						
人材育成	人材-2	大学・観光専科の定員拡大	青海大学、青海民族学院	計画・準備						
人材育成	人材-3	職業学校の定員拡大	新世紀職業学校、青海交通職業技術学校、西寧第一職業学校、西寧国際商務旅遊学校	計画・準備						
人材育成	人材-4	西寧ホテル研修センターの拡充	西寧ホテル	計画・準備						
人材育成	人材-5	大学・職業学校の教員再教育	上記の大学、及び職業学校	計画・準備						
人材育成	人材-6	ホテル従業員再訓練	旅遊局+観光業界	計画・準備						
人材育成	人材-7	観光ガイドの教育	旅遊局+観光業界	計画・準備						
人材育成	人材-8	インタープリター養成	各管理局+旅遊局	計画・準備						

第13章 優先プロジェクトの選定

13.1 優先プロジェクトの選定評価指標と評価基準

「第8章 観光重点地区と重点項目の戦略的整備」において、環西寧圏で観光施設の集積が必要とされる14の優先候補地区(主要観光整備拠点)の14プロジェクトを抽出した。この中から、実現可能性調査(F/S)の対象プロジェクトを選定する。

優先プロジェクトを選定するため、本調査では表13.1.1に示す選定評価項目、指標、及び選定基準を適用した。第4章で示したように、本調査のアプローチは「3つの要素(環境保全、観光需要、観光プロダクト)の最適な組み合わせ」であり、人材育成と組織整備も重要項目である。優先プロジェクトの選定評価でもこれらを重視し、さらに必要性和実現可能性を選定評価項目に加えた。

表 13.1.1 優先プロジェクトの選定評価項目と指標、評価基準

評価項目	評価指標	評価基準	評点
1.観光振興による経済発展	1.1 住民の収入への効果	大きな収入増が期待できる。	3
		ある程度の収入増が期待できる。	2
		収入増が小さい。	1
	1.2 雇用機会への効果	大きな雇用機会増が期待できる。	3
		ある程度の雇用機会増が期待できる。	2
		雇用機会増が小さい。	1
	1.3 持続的な利益への効果	持続的利益が十分に期待できる。	3
		持続的利益がある程度期待できる。	2
		持続的利益があまり期待できない。	1
	1.4 地域経済全体への波及効果	大きな波及効果が期待できる。	3
		ある程度の波及効果が期待できる。	2
		波及効果が小さい。	1
2.環境保全	2.1 自然環境の改善 自然環境への悪影響	自然環境の大きな改善が期待できる。 自然環境への悪影響がほとんどなく、あっても防止できる。	3
		自然環境のある程度の改善が期待できる。 自然環境への悪影響が比較的小さく、通常の方法で対応できる。	2
		自然環境の改善があまり期待できない。 自然環境への悪影響が大きい。	1
	2.2 人文環境保全への効果(歴史文化、宗教文化、民族文化などの資源管理・活用)	人文環境保全への大きな効果が期待できる。	3
		保全へのある程度の効果が期待できる。	2
		保全への効果が小さい。	1
	2.3 伝統産業保全への効果(伝統産業の活用)	保全への大きな効果が期待できる。	3
		保全へのある程度の効果が期待できる。	2
		保全への効果が小さい。	1
	2.4 景観保全と美化への効果	保全と美化への大きな効果が期待できる。	3
		保全と美化へのある程度の効果が期待できる。	2
		保全と美化への効果が小さい。	1

評価項目	評価指標	評価基準	評点
	2.5 観光資源（環境） 保全の啓発効果（住民の意識向上）	大きな意識向上が期待できる。	3
		ある程度の意識向上が期待できる。	2
		意識向上への効果が小さい。	1
	2.6 美化意識と衛生観 念の啓発効果（住民 の意識向上）	大きな意識向上が期待できる。	3
		ある程度の意識向上が期待できる。	2
		意識向上への効果が小さい。	1
3. 人材育成 と組織整備	3.1 人材育成（観光産 業や観光行政）	人材育成が重視されている。	3
		人材育成が配慮されている。	2
		人材育成が含まれていない。	1
	3.2 組織整備（組織強 化、新組織の形成、 組織間の連携など）	組織整備が重視されている。	3
		組織整備が配慮されている。	2
		組織整備が含まれていない。	1
4. 必要性	4.1 戦略性（位置付け と役割）	省の観光開発計画やその他上位計画と整合性を有する。または、広域観光・宿泊拠点として位置付けられている。	3
		複合的な施設整備・プログラムである。	2
		単体の施設整備・プログラムである。	1
	4.2 戦略性（新規市場）	滞在型や高単価などの新規市場に対応できる。	3
		従来国内近隣市場である。	2
		市場設定が不明である。	1
	4.3 戦略性（需要）	多くの来訪者がある。または増加してきている。	3
		一定した来訪者数がある。	2
		来訪者が減少している。	1
	4.4 緊急性	観光資源が壊れ、資源価値を失う危険性が高い。	3
		資源価値消失の危険性がある。	2
		資源価値消失の危険性が小さい。	1
5. 実現可能 性	5.1 コンセンサス	地元住民と行政でコンセンサスが得られている。	3
		詳細な調査・計画作業が必要である。	2
		まだ構想段階である。	1
	5.2 実施組織	実施組織が明確である。	3
		実施組織があるが、強化が必要である。	2
		実施組織が不明である。	1
	5.3 管理・運営組織	管理・運営組織が明確である。	3
		管理・運営組織があるが、強化が必要である。	2
		管理・運営組織が不明である。	1

出所 JICA 調査団

13.2 優先プロジェクトの選定結果

表 13.2.1 に挙げる 14 プロジェクトに対し、上記の選定評価指標による評価結果を表 13.2.2 に示す。

選定評価対象の 14 プロジェクトは、開発プロジェクトによる環境への大きな悪影響が想定されない地区、または必要な緩和策の実施により環境への大きな悪影響を防止できると想定される地区が抽出されている。特に優先プロジェクトとして選定された 3 地区に関しては、14 章から 16 章の「環境社会配慮」において、ゼロ・オプションの場合の検討を含めて自然環境、及び社会環境への負の影響を評価・検討し、環境への望ましくない影響が見込まれる環境項目については環境への悪影響防止・軽減策やゼロ・オプションの検討について述べる。

表 13.2.1 プロジェクトリスト

番号	プロジェクト番号	プロジェクト名	観光サーキット
1	主西-1	西寧観光拠点都市開発	西寧観光拠点都市
2	主西-2	互助民族旅遊区開発	西寧観光拠点都市
3	主青-1	青海湖 151 基地観光開発	青海湖観光サーキット
4	主青-2	金銀灘観光開発	青海湖観光サーキット
5	主青-3	青海湖沙島地区観光開発	青海湖観光サーキット
6	主青-4	鳥島背後地観光開発	青海湖観光サーキット
7	主黄-1	カンブラ公園 ⁴³ ・李家峡地区観光開発	黄河観光サーキット
8	主黄-2	貴徳観光開発	黄河観光サーキット
9	主黄-4	孟達自然公園観光開発	黄河観光サーキット
10	主黄-5	同仁宗教・文化地区観光開発	黄河観光サーキット
11	主大-1	北山国家森林公园観光開発	祁連山観光サーキット
12	主大-2	仙米森林公园観光開発	祁連山観光サーキット
13	主大-3	浩門鎮周辺観光開発	祁連山観光サーキット
14	主大-4	大坂山周辺観光開発	祁連山観光サーキット

出所 JICA 調査団

表 13.2.2 優先プロジェクトの選定

番号	プロジェクト番号	1.経済発展				2.環境保全						3.人材育成と組織整備		4.必要性				5.実現可能性			総合点
		1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	1	2	1	2	3	4	1	2	3	
		住民の収入への効果	雇用機会への効果	持続的な利益への効果	地域経済全体への効果	自然環境保全への効果	人文環境保全への効果	伝統産業保全への効果	景観保全と美化への効果	観光資源（環境）の啓発効果	衛生観念の啓発効果	美化意識と	人材育成	組織整備	戦略性（位置付けと役割）	戦略性（新規市場）	戦略性（需要）	緊急性	コンセンサス	実施組織	
1	主西-1	3	3	3	3	2	2	1	2	1	1	1	1	3	3	3	1	3	2	2	40
2	主西-2	3	3	3	3	1	3	3	1	1	1	1	1	3	2	3	1	2	2	2	39
3	主青-1	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	1	1	1	45
4	主青-2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	3	2	2	2	1	1	1	34
5	主青-3	1	1	2	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1	1	1	44
6	主青-4	2	2	2	2	2	1	1	1	2	1	1	1	3	2	2	2	2	2	2	33
7	主黄-1	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	1	1	49
8	主黄-2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	3	2	2	1	2	1	1	34
9	主黄-4	2	2	2	2	3	1	1	2	3	2	2	2	3	1	2	2	2	2	2	39
10	主黄-5	2	2	2	2	1	3	3	3	2	3	1	1	3	2	1	2	2	2	2	39
11	主大-1	2	2	2	1	3	1	1	2	3	2	1	1	3	2	2	3	2	2	2	37
12	主大-2	2	2	2	1	3	1	1	2	3	2	1	1	3	2	2	2	2	2	2	36
13	主大-3	2	2	2	2	2	2	1	2	2	1	1	1	3	2	1	1	2	1	1	31
14	主大-4	2	2	2	1	3	1	1	2	3	2	1	1	3	2	2	2	2	2	2	36

出所 JICA 調査団

⁴³ カンブラ国家森林公园と青海尖扎カンブラ国家地質公園を「カンブラ公園」と称する。

選定評価の結果、総合点が高い次の3プロジェクトを優先プロジェクトとして選定した。
 図 13.2.1 に3つの優先プロジェクトの位置を示す。

- **カンブラ公園・李家峡地区観光開発**
- **青海湖 151 基地観光開発**
- **青海湖沙島地区観光開発**

なお、西寧市は環西寧圏、及び青海省の観光活動の玄関口であり、また青蔵鉄道のルート上においても青蔵高原やラサへの玄関口であることから、さらなる観光開発の重要性は明らかであり、ホテルを始めとする民間の観光施設開発集積が加速する状況に達しつつある。一方、本調査の大目的に沿うアプローチである「3つの要素（環境保全、観光需要、観光プロダクト）の最適な組み合わせ」に合わせて評価基準を設定すると、「開発が遅れているがポテンシャルが高く、地域全体への観光開発効果の高い地区」の評価がより高くなる結果となった。結果的には、「西寧観光拠点都市開発」の評価は上記3地域に次ぐ4番目となったが、これはあくまでも環西寧圏全体の調和ある観光開発という評価視点によるものである。青海省・環西寧圏の観光ゲート・観光拠点機能という観点からの西寧市の重要性は高く、12.2で提案した観光開発プロジェクトにおいても、観光開発拠点への投資額の60%、観光スポットへの投資額の70%、宿泊施設への投資額でも過半を占めている。



出所 JICA 調査団

図 13.2.1 優先プロジェクト位置図